

平成23年3月期 第2四半期決算および通期業績予想について

ANAグループでは、本日10月29日(金)、平成23年3月期 第2四半期決算の概況を取りまとめました。詳細は別添の「第2四半期決算短信」をご参照ください。

1. 平成23年3月期 第2四半期の連結業績

(1) 連結経営成績 (連結子会社71社、持分法適用非連結子会社5社、持分法適用関連会社20社)

①概況

- ・ 堅調な需要推移により、世界的な景気後退と新型インフルエンザの影響を受けた前年同期と比較して、航空運送事業で大幅な増収となりました。
- ・ 「ANAグループ2010-11年度経営戦略」の着実な実行により、生産性のさらなる向上とコスト構造改革を推進し、グループ全体で営業費用の抑制に努めました。
- ・ 特別損益は、独禁法関連引当金繰入額の計上等により141億円の損失となりました。

これらの結果、当期の連結経営成績は、営業収入が6,841億円、営業利益が568億円、経常利益は455億円、四半期純利益は132億円と大幅な増収増益となりました。

単位: 億円 (増減率を除き、単位未満は切り捨て)

[連結経営成績]	平成23年3月期 第2四半期累計期間	平成22年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)※1
営業収入	6,841	6,118	723	11.8
営業費用	6,273	6,400	▲127	▲2.0
営業損益	568	▲282	850	---
営業外損益	▲113	▲132	19	---
経常損益	455	▲415	870	---
特別損益	▲141	0	▲142	---
四半期純利益または純損失	132	▲253	386	---

※1 前年同期との比較による増減率を示しています。

単位: 億円 (単位未満は切り捨て)

[セグメント情報]	平成23年3月期 第2四半期		(参考) 平成22年3月期 第2四半期		増減	
	売上高	営業損益※2	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空運送事業	6,117	514	5,400	▲287	717	802
旅行事業	850	26	875	▲6	▲25	32
その他	683	25	691	8	▲8	16

※2 各事業における営業損益はセグメント利益に該当します。

②国内線旅客事業

- ・ ビジネス需要、プレジャー需要ともに堅調に推移し、生産量を減少する中でも、旅客数は前年同期実績を上回りました。
- ・ 「乗継旅割」の新規路線設定、「ANAカードファミリーマイル」の開始など、需要喚起とサービスの強化に努めました。
- ・ ゴールデンウィークや夏の多客期間には、臨時便の設定や機材の大型化を行うなど、引き続き需給適合を推進しました。

結果として、国内線旅客収入は前期比2.5%増の81億円の増収となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

〔国内線旅客事業〕	平成23年3月期 第2四半期累計期間	平成22年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高(億円)	3,325	3,244	81	2.5
旅客数(千人)	20,957	20,206	750	3.7
座席キロ(百万座席キロ)	28,398	29,559	▲1,160	▲3.9
旅客キロ(百万人キロ)	18,632	17,960	672	3.7
利用率(%)	65.6	60.8	4.8	——

③国際線旅客事業

- ・ 第1四半期にアイスランドの火山噴火やタイの政情不安による一時的な影響はありましたが、ビジネス需要の顕著な回復とプレジャー需要の堅調な推移により、全方面で旅客数は前年同期実績を上回りました。
- ・ 7月より成田＝ミュンヘン線を新規開設し、また新プロダクト&サービスコンセプト「Inspiration of Japan」搭載機材を成田＝ニューヨーク線、成田＝フランクフルト線に投入するなど競争力の強化に努めました。
- ・ 5月からの上海万博開催に合わせた旅行商品の提供、訪日促進キャンペーンの継続実施などプレジャー需要の獲得にも努めました。

結果として、国際線旅客収入は前年同期比40.5%増の408億円の増収となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

〔国際線旅客事業〕	平成23年3月期 第2四半期累計期間	平成22年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高(億円)	1,418	1,009	408	40.5
旅客数(千人)	2,601	2,186	414	19.0
座席キロ(百万座席キロ)	13,925	13,475	449	3.3
旅客キロ(百万人キロ)	11,025	9,750	1,274	13.1
利用率(%)	79.2	72.4	6.8	——

④貨物事業

- ・ 国内線は、国際線への接続貨物が伸びており、輸送重量の底上げに寄与しましたが、機材小型化の影響もあり、輸送重量は前年同期実績を下回りました。
- ・ 国際線は、液晶・半導体関連部材の荷動きが活発な中国路線、アジア路線を中心に需要は好調に推移し、輸送重量は前年同期実績を上回りました。

結果として、国内線貨物収入は前年並み、国際線貨物収入は前年同期比78.9%増の180億円の増収となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

[貨物事業]		平成23年3月期 第2四半期累計期間	平成22年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)
国内線	売上高(億円)	156	158	▲ 1	▲ 1.2
	輸送重量(千トン)	219	229	▲ 10	▲ 4.4
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	218	227	▲ 8	▲ 3.7
国際線	売上高(億円)	409	228	180	78.9
	輸送重量(千トン)	272	186	85	45.6
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	998	819	179	21.8

(2) 連結財政状態

- ・ 資産の部では、譲渡性預金など手元資金が増加するとともに、航空機を受領したことなどにより、流動資産と固定資産がそれぞれ増加しました。
- ・ 有利子負債は、社債の発行や新規の借入により、1,072億円増加しました。
- ・ 自己資本は6億円減少の4,729億円、自己資本比率は23.3%となりました。

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

[連結財政状態]	平成23年3月期 第2四半期累計期間	平成22年3月期	増減
総資産(億円)	20,291	18,590	1,700
自己資本(億円) (注1)	4,729	4,735	▲ 6
自己資本比率(%)	23.3	25.5	▲ 2.2
有利子負債残高(億円) (注2)	10,489	9,416	1,072
D/Eレシオ(倍) (注3)	2.2	2.0	0.2

注1: 自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

(3) 連結キャッシュ・フローなどの状況

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益に、減価償却費や税金などの調整の結果、1,213億円の収入となりました。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、航空機を中心に投資を行った結果、1,784億円の支出となりました。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を進める一方、社債の発行、新規の借入により資金調達を行った結果、1,026億円の収入となりました。

単位：億円(単位未満は切り捨て)

[連結キャッシュ・フローなど]	平成23年3月期 第2四半期累計期間	平成22年3月期 第2四半期累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,213	713
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,784	▲2,240
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,026	1,937
現金および現金同等物期末残高	1,935	1,843
減価償却費	576	557

2. 通期の見通し

- ・ 上半期業績は、世界的景気後退局面からの回復傾向が見られる中、旅客、貨物ともに当初計画と比べて好調に推移しました。
- ・ わが国経済は、アジアを中心とした世界経済の回復に伴い持ち直しつつありますが、依然として雇用環境は厳しく、急激な円高、株価低迷などもあり、先行きは楽観できない状況となっております。
- ・ 第3四半期以降は、引き続き需給適合を行いながら競争力の強化、需要喚起に努めるとともに、羽田空港からの路線展開という最大のビジネスチャンスを確実に捉えてまいります。また、コスト構造改革の推進による費用の抑制についても継続して着実に実行していきます。

これらの状況から、あらためて今後の見通しについて精査した結果、業績予想を下記の通り変更いたします。

なお配当につきましては、当初の予定通り1株につき年間1円を予定しております。

単位：億円(単位未満は切り捨て)

[平成23年3月期見通し]	修正予想	期初予想	増減	前年実績 (平成22年3月期)	増減
営業収入	13,770	13,600	170	12,283	1,486
営業利益	700	420	280	▲542	1,242
経常利益	370	130	240	▲863	1,233
当期純利益	60	50	10	▲573	633

以上